

新しい漁船に

はるかに速い人類の歴史のなかで八船Vというものを考え、そしてつくったことは、まさに大きな人間の智慧であった。

「流れのように、はじむは、無心に漂う木にすぎりついで川を渡り、入江をゆきかきいしての原船人が、丸木をくって、そのくぼみに丸木を、身を濡らすことなく水面上を自由に動かし、わる手だてを覚えた。おそろくそれまでにながら年月を要したことであろう。

そして、いったん考えついた八船Vを、人間はつきつきに便利なものに改良してきた。貨客を積む船、漁業に従事する船、軍船等いづれも人の力と、自然の力を利用しての船であった。

内海東部におけるカタクチイワシの長期予報 (四十五年度)

ここ数十年間の瀬戸内海全域におけるカタクチイワシの漁獲量は、年間五〜八万トンでそれは総漁獲量の二〜三十%を占めている。

その中、兵庫県の漁獲量は、昭和三十八年の異常冷年以後内海東部(備前瀬戸以東)ではやや低い水準に止まっている。これは異

常冷年時に内海におけるカタクチイワシ資源の分布が大きく分断され、内海西部に一時に偏在したためと考えられる(図参照)。

瀬戸内海における漁獲量の把握にはイカナゴとともにプランクトン捕食者であり、系統群の分析とともに、発生係についてもかなり明らかになってきた。一方、この

内、需要の方向や漁業形態が大きく変化し、一部の海域では大羽はとらず、シラスのみに漁獲が集中する傾向も顕著となり、これが本種の資源状態に如何に作用するかなども問題点となっている。

いづれにしても、多獲魚でありかつ年変動の大きい魚種については、政策的な観点による予測は効果的ではなく精度も低いという理由から、去る六月四〜五日に関係機関(南水水研、和歌山、大阪、兵庫、岡山各水産試験場)が集まって、始めて内海東部のカタクチイワシ予報検討会を行なった。その結果は次の通りである。

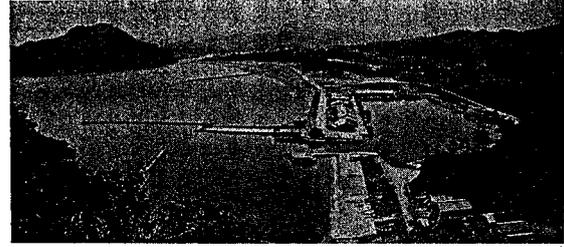
昭和四十五年度予報

(シラス) 本年春季発生群の初期は、環境が低温であり、したがって漁期も比較的イカナゴの豊漁はカタクチイワシは不漁年という関係から、本年は前年よりやや悪く予想されるが9月以降は、ここ数年の水准にもとらわれる。

昭和三十八年第三次整備計画が立案され、新港の整備と併行して水揚場も増加し昭和四十四年三月第三次整備計画の完成をみたのである。第四次整備計画は昭和四十四年より継続実施し、内港の東に掘込式泊地を造成し大型船と小型船の親合をさせるため引続き物揚場と泊地を整備中である。

第三次整備計画の完了の経過と第4次整備の進む

浜坂漁港 種別第二種 管理者 兵庫県 浜坂漁港



旧浜坂漁港は早田川河口に位置し、往時は小型漁船数及び水揚高におおて但馬地区有数の漁港であったが岸田川の改修後船着入口が埋没し、加えて浜坂湾東端に位置しているため冬季の北西季節風による波浪がまともに襲来して河口の閉塞著しく、冬季は小型漁船の出入も不可能な事が多かった。出水時は河口部全域が水害をうけて漁害をうける事がしばしばであった。

修築事業実績 (第1次~第3次) S.23年~S.43年 事業費 405,000千円

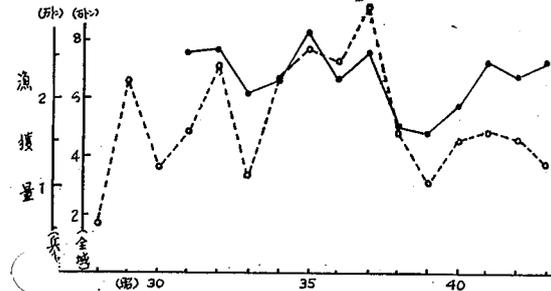
事業内容 防波堤776M -1M物揚場17M
岸183M -2M物揚場120M
-3M~3.5M岸壁313M 道路990M
船揚場276M 泊地73,900㎡

改修事業 (第四次整備計画 S.44~S.48年) 計画

施設名	数量	事業費(千円)	摘要
航路護岸	50M	98,200	完成による港勢展望 年陸揚高 2,077トン 利用動力漁船 181隻 (686トン)
-2M被岸	(8,400㎡) 42,000㎡		
物揚場	402M		
その他	W=5.0M L=235M 1式		

陸揚量の推移

年別	25年	30年	35年	40年	43年
陸揚数量	510 t	1,070 t	1,052 t	812 t	2,144 t



カタクチイワシ漁獲量の経年推移
実線: 瀬戸内全域, 虚線: 兵庫内海

予測の基礎

発生段階	発生集団	漁場、漁期	産卵(卵・稚仔)	環境(海況)	予 測
春季発生群	紀伊水道(4~11月) 大阪湾(5~8月) 9~11	和歌山、山根の本年はと現出量平均は3年までの5月までの出量はほぼ同量。本年は5月には本産卵の出現は5月中旬に出現	和歌山、低温(水温は平均より4~5°C低く、最近急激に回復)	紀伊水道で、和歌山県はほぼ同じ漁獲量を示し、徳島側は3年分は増加傾向にある。	
夏・秋季発生群	播磨灘(6~8月) 備前瀬戸(6下~7)	本年春季発生群 大阪湾(8・9月) 播磨灘(7月~)	本年は前年より悪く、したがって漁期も比較的イカナゴの豊漁はカタクチイワシは不漁年という関係から、本年は前年よりやや悪く予想されるが9月以降は、ここ数年の水准にもとらわれる。	漁期後半、本年の発生群については、和歌山の発生状況とシラスの漁獲状況から前年より本悪く、しかし9月以降は、前年より悪く、ここ数年水準となる。	

備考: 45年度はイカナゴが豊漁で、かつ漁期が長かった、従来からイカナゴとカタクチイワシの漁獲量は逆相関を示すといわれている。

お知らせ

5トン未満の遊漁船に対する海技従事者乗船の取締り期間が本年12月末まで再度猶予されることがほぼ明らかになった。

(詳細は県漁連から追ってお知らせします。)

海苔養殖の頼もしい担い手

おかげで海苔養殖の95%以上はクレモナが担われています

クレモナから海苔網
富士式クレモナ海苔網
タイトウのクレモナ海苔網
アメリカ式クレモナ海苔網
ヒラタのクレモナ海苔網
クレモナふし海苔網
クレモナまき海苔網
クレモナせと海苔網
クレモナアゼン海苔網
クレモナスズラン海苔網
クレモナケンモウ海苔網

クレモナ (製網)

いつも漁場に一番のり

●主機用 4~1000馬力
●補機用 8~3000馬力

●3.0E形/30馬力

日野自動車

